

第3次芦屋市地域福祉計画評価シート 団体

団体名	芦屋市民生児童委員協議会		
所属人数	110人（男女の比率 男：女 = 2：8）		
平均年齢	60代～70代		
任期の有無	有（3年）	・	無
役職の有無	有（任期：3年）	・	無

1 誰でも民生委員になれるか ▶▶▶ いいえ

地域に根差した人でなければ活動に支障が出るため、適任者を探すことに苦労している。

2 新たに始めた活動はあるか ▶▶▶ ある 「4か月児健診における赤ちゃん訪問事業の啓発」

目的：赤ちゃん訪問を通じて民生委員の存在を知ってもらい、子育ての負担感を軽減したり、子育て情報の提供を行ったりする。顔見知りの関係を築く。

内容：「赤ちゃん訪問事業」とは、保健師等による「乳児全戸訪問事業」の訪問後、地域の民生委員等が手作りのスタイ（よだれかけ）を持って家庭を訪問する事業（希望者のみ）。保健センターで実施されている4か月児健診においてブースを設け、保護者に事業への参加を呼びかけている。

動機：年々、当事業の申込み件数が減少しており、保護者に精神的余裕が出てくる4か月児健診の頃に再度アプローチすることを検討。試験期間を設けた上で本格実施し、申込み件数が増加した。

3 活動の担い手は足りているか ▶▶▶ 足りていない

課題：①70歳未満の人は親の介護問題や働いている人も多く、活動との両立が困難。なり手の高齢化。
②行政や関係機関からの協力依頼事項が増え、本来の見守り訪問活動以外の負担が大きい。
③地域のつながりの希薄化により、顔の見える関係がなく、実態が分からない。
④欠員町の住民の不安感や、欠員をカバーする民生委員への更なる負担感の増加。

方法：業務量を見直し（削減）、民生・児童協力委員の数を増やすことで、活動しやすい体制をつくる。

4 外部（役員以外の者を含む）からの意見を団体の活動等に取り入れているか ▶▶▶ はい

ブロックごと（9地区）で意見があれば代表（ブロック長）が持ち帰り、役員会（総務会）で協議することがある。

5 他の団体と活動することはあるか ▶▶▶ ある

・日ごろ社会福祉協議会と密に連携する他、自治会と互いに情報共有し合同で見守りを実施したり、学校、PTA、コミスク等と協力し、登下校見守りパトロールや交流の場（精道ママカフェ等）を実施したりしている。
・運動会等学校の行事に呼ばれるようになり、各方面からの情報も得ることができて役立っている。

6 所属の団体（活動も含め）のPRや感想

・民生委員になることで、若い世代から高齢者まであらゆる世代の人と関わることができて、得るものが多いため、新任の委員にもそのような体験をしてもらいたい。
・多くの人に民生委員の活動や存在について知ってもらい、欠員の問題を身近に感じてもらいたい。